アニメの魅力

現代中国学部１年　鄧　卓

子供の頃、一番楽しかったのは毎年の新年でした。叔父が日本からプレゼントを持って帰ってくれるからです。スマホやパソコンがまだなかった時代、テレビは子供たちの楽しみの源でした。5歳の年、私は『ドラえもん』のDVDをもらいました。新世界の扉がドラえもんのポケットに開かれたような気がしました。どら焼きが好きなドラえもん、善良なのび太、平和が好きなしずかちゃん、歌と食事が好きなジャイアン、芸術と科学が好きなスネ夫は私の子供の頃の生活に伴っていました。

クレーンゲームの戦利品（筆者撮影）

小学校時代、毎日放課後は、テレビの前で『名探偵コナン』というアニメ放送を待っていました。このアニメでは、雨の日は魚が釣れやすく、北半球では太陽に指を向け、時計回りと12時の2分の1の方向が南になるなど、多くの知識を学びました。当然これらの知識を学んでいる中でも、偶然に怖い事件に驚いて一晩中眠れないこともありました。コナン（工藤新一）と毛利蘭との幼馴染の恋は、私に最初の恋愛の想いを持たせてくれました。

恋愛アニメというと、中学生だった私が一番好きなアニメ映画は新海誠監督の『君の名は。』です。どれくらい好きかというと、映画館でまず自分で観て、次に母と観て、友達と観たあと最後はガールフレンドと一緒に観るくらい好きでした。この映画は青を基調としており、主人公の瀧（たき）と三葉（みつは）は時々身体が入れ替わってしまい、最後には二人ともよりリアルな自分になっていきます。この奇妙な現象の起源は組紐の物語にあります。ある彗星が夜空を引き裂いて、二人の身体が入れ替わる現象が生まれました。その後、瀧の記憶は曖昧になっていきますが、三葉を忘れたくないと思い、記憶を頼りに糸守町（いともりまち）に向かいました。8年後、大学を卒業して東京で就職し、その間に何度か滝と三葉はすれ違いました。偶然の機会に、瀧と三葉は互いの電車の窓で相手を見つけました。それぞれの電車から降りた二人は最後に近くの階段で出会いました。滝は「君をどこかで？」と聞くと、三葉は涙を浮かべて「私も」と答え、二人は笑って「君の名前は？」と尋ねました。

石板の『君の名は。』（筆者撮影）

アニメは私にこの世界への好奇心を抱かせてくれます。また、アニメの中の街や風景を見ると日本に憧れる気持ちになります。もし機会があれば、ぜひ一度好きな人と一緒に物語に描かれた飛騨の糸守町に行ってみたいです。アニメからパワーをもらいましたので、日本でさらに元気をもらえると思います。